

校内研究の研究主題

(1) 研究主題

すすんで考え 学び合う子を育む
～友達とのかかわりを通して 思考を深める授業づくり～

(2) 主題設定の理由

本校の児童は明るく、活発である。また、自分の興味関心のある事柄については、進んで授業に参加し、よく話す。しかし、相手の考えをよく聞いて考える、課題の解決に向かって仲間とともに学び合う姿が見られにくい。問われた内容を理解するのに時間がかかる児童も多い。そこで、課題の解決に向かって、一人一人が自分の考えに根拠や理由を明確にもつことで、相手の考えにもより関心を持ち、学び合いの成立につなげることができるのではないかと考えた。

昨年度、本校では高学年に教科担任制が先行導入された。より深い教材研究ができ、深い学びにもつながった。また、教師自身が教科の専門性を高めることができた。一方で、一人一人の教職員が違う教科をもつということは、授業形態等に差が生じることもあった。授業展開等、各教科でばらつきがなく、どの授業でも安心して受けられること、教科横断的に共通した力をつけていくことなどを考え、蝶屋授業モデルを基盤とし、根拠・理由を明確にした話し合いの充実を授業づくりの柱として実施していくことを引き続き行いたい。蝶屋モデルを基盤とする授業作りをめざし、「一人一人が自分の考えに根拠や理由を明確にもつこと」とそれをもとにした「根拠を指し示しながら理由を説明する話し合いの充実」の2点を重点的に取り組むこととする。児童が互いに学び合いながら、より高まっていけるように、研究主題を「すすんで考え 学び合う子を育む」とし、そのために副題として「友達とのかかわりを通して 思考を深める授業づくり」とした。

この主題のもと、授業実践を進めていくことで、学校教育目標の「感謝の心をもとに、かかわりの中で自己を高める、たくましい児童の育成 ～安心・安全な学校づくりを通して～」の具現化に努めていくことができると考える。

さらに、児童生徒の「1人1台端末」の下での新しい学びが本格的にスタートし、これまでの教育実践の蓄積に加えて、ICTの活用で、学習活動の一層の充実と主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指すことが望まれている。本校も、それに向けて、よりよい授業改善に尽くし、全職員で研究を積み上げていきたい。

(3) 研究仮説と視点

本校におけるめざす授業

蝶屋モデルの授業スタイルの定着

「根拠・理由を明確にした自分の考えをもつ」

「根拠を指し示しながら理由を説明する話し合いの充実」

(1) 日々の授業実践・タイムリーな授業改善

重点① 一人一人が考えをもつための手立て

重点② 思考が深まる交流にするための手立て

(2) 学びを支える学習基盤づくり

ア 学習の約束の定着・学習環境の整備

イ 家庭学習の習慣化 ウ 読書活動の促進・充実

エ ICT活用・タブレットを使った授業の取組

オ まとめ・ふりかえりの充実

研究仮説

- ・本校の授業の柱を明確にすることで、どの教科でも同じ視点で、教材研究や校内研究を進められるだろう。
- ・どの教科でも、根拠や理由を大切にした授業を行っていくことで、本校の課題である情報抽出力がついてくるだろう。
- ・どの教科でも、蝶屋モデルで授業を進めることで、教科ごとに先生が替わるという児童の負担感を軽減し、安定した授業にもつながるだろう。

(4) 研究の重点

本校のめざす「蝶屋モデルの授業スタイル」を定着するために、次の二つの重点を意識して実践研究を積み重ねていく。

① 一人一人が考えをもつための手だての工夫

つかむ 思考させる課題をつくる（根拠や理由を付けて考えをもてるような課題設定）

考える 課題や問題、考える視点を共通理解する場の設定

個に応じた適切な支援

② 思考が深まる交流にするための手立て

学び合う 結論を述べ、根拠を指し示しながら理由を説明する力の育成

思考を深めるための発問・教師の問い返し

目的に応じたペアやグループ学習など、児童が考えを出しやすい学習形態の工夫

課題や発問など、話し合う必要感をもたせる手立ての工夫

タブレットやホワイトボード等、思考を深めるために必要なツールの吟味

根拠や理由をもとに伝える力を育成するための話型の継続指導

聞いて考える力の育成

まとめる 課題に正対したまとめ

自分のことばで「まとめ」「ふり返り」

このように、つけたい力を明確にし、見通しをもって学習することで、蝶屋モデルの定着を図りたい。そのために、二つの重点を共通理解し、意識して研究に取り組む。そして、本時でつけたい力の定着を把握するために、「まとめ・ふり返り」の時間の確保をし、自分の言葉でノート等に「書く」ことで学びや変容を自覚させていく。また、「適用・活用」に取り組むことで、学びや変容を児童一人一人が自覚できるようにする。このような日々の実践の積み重ねで、蝶屋小学校の児童を育成し、学校全体の学力を向上させ、「すすんで考え 学び合う子の育成」の実現を目指していく。

(5) 具体的な取組

① 日々の授業実践・タイムリーな授業改善

日々の授業について、児童の実態を基にした授業改善、教材・教具の開発、学年の壁を越えたフリーの授業参観、職員室での情報交換など、若手もベテランも関係なく、いつでもどこでも学び合える環境を大切に、全職員で授業力向上や授業改善を行っていく。教科担任制の導入に応じ、様々な教科の授業参観をすることで、授業スキルをアップすることができると考える。また、計画を重視し、つけたい力を明確にして、見通しのある実践研究を進めていきたい。

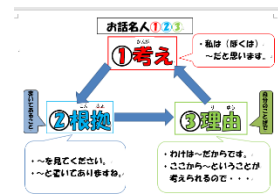
②学びを支える学習基盤づくり

友達とのかかわりの中で思考を深めていくために必要な、主体的に学びに向かう態度や、自ら考えを整理し表現するといった児童一人一人の力を授業はもちろん、それ以外の場でも習熟を図る。そのために、次の5つに取り組む。

ア 学習の約束の定着・学習環境の整備	イ 家庭学習の習慣化
ウ 読書活動の促進・充実	エ ICT活用・タブレットを使った授業の取組
オ まとめ・ふりかえりの充実	

ア 学習の約束の定着・学習環境の整備（栖原・杉山）

- ・ノートの書き方（線の引き方）
- ・学習用具の約束（4・9・1月に点検）
- ・話し方・聞き方（型の提示）
- ・ユニバーサルデザインを意識した教室設計（学習関係の掲示物）
- ・板書に用いる学習プレートの活用



イ 家庭学習の習慣化（増田）

- ・「家庭学習の手引き」の作成（各学年の目標時間・約束・内容の設定）
- ・課題の内容の吟味と共通理解（基礎基本の学習・自主学习）
- ・家庭学習バッチリ週間の取組（4・9・1月）

ウ 読書活動の促進・充実（石丸・佐々木）

- ・年間の目標読書数（各学年の設定）
- ・週末読書や家庭読書の日の設定（毎月23日：読書カード活用）
- ・全校放送による定期的な図書貸出の呼びかけ
- ・授業と関連した並行読書の実施

エ ICT活用・タブレットを使った授業の取組（岸本・栖原・仁野）

- ・ICTサポートとの連携、ICT研修の実施
- ・タブレットを使った授業実践の情報共有
- ・学年ごとのつきたい力の共通理解

オ まとめ・ふりかえりの充実（杉山）

- ・まとめ（学習用語）
- ・ふりかえり（どんな力がついたか、視点、観点を示す）
- ・「適用・活用」の吟味

③確かな学力の定着に向けた授業づくり【蝶屋モデル】

児童一人一人の力と集団を育てていくことで主体的・対話的で深い学びのある授業の流れが実現していくと考えている。そこで、アクティブ・ラーニングの視点から、45分授業デザイン（蝶屋モデル）の共通実践を推進していく。このような授業づくりをめざすことで、よりよい解決に向かうための主体的・対話的で深い学びの過程を実現していく。